

第1回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

平成 25 年 6 月 24 日（月）

時間 午後 2 時から

場所 弥富市 図書館視聴覚室

（弥富市役所隣 2 階）

○議 事

1.開会

仮議長 （事務局 伊藤）	・ただ今から、平成25年度 第1回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。 ・規約第6条第5項に規定する座長が決定するまで、弥富市防災安全課 伊藤が仮議長として会議を進行させていただく。
-----------------	---

2. 弥富市長挨拶

仮議長 （事務局 伊藤）	・最初に、服部弥富市長よりご挨拶をいただく。
服部市長	・何かとお忙しい中、お昼からという出にくい時間の中、お集まりいただき感謝する。また、平素はそれぞれのお立場で、行政の推進に際しまして、ご協力をいただいている事を重ねてお礼申し上げる。 ・コミュニティバスの運行も、6月21日に3年が経過した。この間、本協議会において、ご協議頂き、より良い運行を目指してきた。 ・本年度も、バス運行方法、利用者の拡大など、多くの課題をかかえているが、今後とも、委員の皆様方にはご協議頂きたい。 ・本日は、事業報告、決算報告、平成25年度の事業計画等々の議題である。 ・平成25年度最初の協議会で、委員の皆様の改選の年でもあり、今回新たに委員になられた方も多くいらっしゃるので、慎重なご審議を賜りたいと思う。
仮議長 （事務局 伊藤）	・本日の会議資料の確認を、事務局より願います。
事務局 （横江）	○資料の確認 会議次第 資料1：弥富市地域公共交通活性化協議会委員名簿 資料2：平成24年度弥富市地域公共交通活性化協議会決算書 資料3：平成25年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画（案） 資料4：H26年度 生活交通ネットワーク計画案 資料5：利用実態調査について 資料6：東部ルートにおける予約制運行の検討について 資料7：地域協働推進事業補助金の創設について 参考資料：弥富市地域公共交通活性化協議会規約 配席表

	豊田都市交通研究所 研究成果報告会チラシ 冊子 弥富市生活交通ネットワーク計画の策定業務の報告書 協議会委員の委嘱状
仮議長 (事務局 伊藤)	・皆様には、本日より2年間、地域公共交通活性化委員としてお世話になる。 ・議題に入る前に、委員の委嘱状については、お手元に配布してある。 ・本日は第1回の会議なので、資料1の委員名簿を基に、各委員のご紹介をさせていただきます。 ○委員紹介 ・欠席委員 【名古屋タクシー協会 副会長 石川 優^{ゆう} 様】

3.議題

(1) 役員の選任について

仮議長 (事務局 伊藤)	・「議題(1) 役員の選任」に入る。 ・会長は、協議会規約第6条第2項の規定より、服部市長にお願いします。 ・副会長、座長及び監事については、協議会規約第6条第3項に、「副会長、座長及び監事は、委員の中から会長が指名する」と規定されており、会長である服部市長より役員の指名をお願いします。
服部市長	・会長から指名をするということで、私から指名させていただきます。 ・副会長は、弥富市副市長 大木委員にお願いしたい。 ・座長は、豊田都市交通研究所 山崎委員にお願いしたい。 ・監事については、区長会会長 佐藤委員、女性の会会長 鈴木委員にお願いしたい。 ご指名した委員の方々については、今後よろしくお願い申し上げます。
仮議長 (事務局 伊藤)	・ここより、議長を座長の山崎委員に交代していただく。
山崎議長	・改めまして、よろしくお願い申し上げます。 ・公益財団法人 豊田都市交通研究所に所属する、山崎である。 ・私どもは、愛知県の認可で設置されている、豊田市にある交通に関する研究所である。 ・この協議会に参加させていただいている理由を、新しい委員さんもおられるのでお話しさせていただきます。 ・国の公共交通に関することを取り扱うのは国土交通省であるが、各地方に運輸局があり、中部運輸局は、全国的に見ても積極的に色んな活動をしてみえる中で、地域公共交通コーディネータ制度があり、そこに登録しており、その活動の一環として、弥富市に関わりを持たせていただき、5年ぐらいなる。 ・弥富市のバスも、この形になって3年ということである。さらにより良いものにしていくために、皆様方のご協力をお願いします。

3.議題

(2) 平成24年度決算報告について

山崎議長	・議題(2) 平成24年度決算報告について、事務局より資料の説明をお願いします。
------	--

事務局 (横江)	○資料 2「平成 24 年度弥富市地域公共交通活性化協議会決算書」説明 1. 決算書 ・平成 24 年度弥富市地域公共交通活性化協議会決算について資料 2 を基にご報告する。 ・最初に、バス運行事業費について、委託契約額 99,659,150 円、運賃収入等が 4,792,543 円、契約額から運賃収入等を差引いた 94,866,607 円となっている。 ・歳入について、弥富市負担金は予算額1億1,300万円に対し決算額1億281万3,132円。 ・国庫支出金は予算額 800 万円に対し決算額 1,672 万 8,000 円。 ・これは「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」となる。この内訳といたしまして、バス運行事業に対する補助額が 9,273 千円、調査事業に対する補助額が 7,455 千円である。 ・諸収入は貯金利子が 511 円。 ・合計は、予算額1億2,100万2,000円に対し決算額1億1,954万1,643円となっている。 ・歳出について、総務管理費、諸費を合わせた総務費は予算額805万円に対し決算額1,673万3,656円。 ・事業推進費、広報公聴費を合わせた事業費は、予算額1億1,295万円に対し決算額1億280万7,987円。 ・合計は、予算額1億2,100万2,000円に対し決算額1億1,954万1,643円となり、差し引き額は146万357円となる。 ・ただ今の決算について、監事を代表し、安藤委員より監査報告をしていただきたい。
山崎議長	・監事の方に監査をしていただいている。 ・監査結果について、監事の佐藤区長会長からご報告をお願いします。
佐藤委員 (監事)	◆監査報告 ・監事より、監査結果についてご報告する。 ・弥富市地域公共交通活性化協議会事務局より提出された平成 24 年度弥富市地域公共交通活性化協議会決算書について、その関係書類および諸帳簿を監査した結果、遺漏なく適正に会計処理が実施されていたことをご報告する。
山崎議長	・平成24年度決算報告について、ご質問等あればお願いします。 ・平成24年度協議会の決算に関して、ご審議いただきたい。 ・ご承認いただける方は、挙手をお願いします。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	・昨年度の決算報告は承認された。

3.議題

(3) 平成25年度事業計画について

山崎議長	・「議題 (3) 平成25年度事業計画について」資料説明と報告を、事務局よりお願いします。
事務局 (横江)	○資料 3「平成 25 年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画」説明 ・この内容については、昨年度の最後の協議会でもご提示させて頂いておりますが、委員も変わっており、平成 25 年度の調査・検証について発注

	内容、受注業者も決まっておりますので、改めてご報告させていただきます。 ・説明の前に、冊子「弥富市生活交通ネットワーク計画の策定業務の報告書」の109ページをご覧ください。 ・昨年度に様々な調査事業を実施し、これから事業を進めていく上での改善方策の方針ということで、とりまとめている。 1. 周辺自治体との連携による乗り継ぎの改善。 2. 中長期的な視点での新たな運行方法の導入検討と、適切な大きさの車輛の導入。 3. ニーズに促したダイヤの見直し。 4. 周知、利用促進活動の積極的展開。 ・次に、資料3をご覧ください。 ・平成25年度は、国の地域公共交通確保維持改善事業という補助事業のうち、弥富市コミュニティバスの運行に関しては「地域内フィーダー系統確保維持事業」を活用し、事業を実施する予定である。 1. 弥富市コミュニティバス運行 ・平成24年度の調査検証結果を基にダイヤの改正を検討し、新ダイヤによる運行の開始を考えている。 2. 運行の検証、改善方策の検討 ・今年度と同様に、「利用者実態調査」や「モニタリング調査」等の必要な調査により問題点・課題を抽出し、運行の検証及び改善方策の検討のための基礎資料とする。 ・また「周辺自治体の公共交通との連携」の検討や、東部ルートの予約制運行など新たな運行方法を含めた「運行手法の改善」の検討を行う。 3. 利用促進策の実施 ・「改正時刻表の配布」に関しては、新ダイヤに基づき作成した時刻表を、ダイヤ改正の時期を踏まえ、全戸配布する予定である。 ・「利用者負担軽減策の実施」に関しては、コミュニティバス利用者の金銭負担の軽減を図り、利用促進を図るため、平成23年4月1日から導入しているシルバーパスや定期券、回数券の販売を継続する。 ・「利用促進策の検討・実施」に関しては、コミュニティバスの利用促進を図るため、平成23年度から実施しているサイクル&バスライド駐輪場設置を継続する。また、その他にも「お試し乗車券配布」「利用促進イベントの実施」「市広報・HPを活用した周知活動の実施」等といった施策についても実施を検討する。 4. 弥富市地域公共交通総合連携計画の見直し ・これまでに検討してきた内容等を基に、平成21年度に策定した「弥富市地域公共交通連携計画」を見直しする。 5. 生活交通ネットワーク計画の策定 ・これまでに検討してきた結果を踏まえ、新たな生活交通ネットワーク計画を策定する。 6. 協議会の開催 ・予算・決算、運行の検証や改善方策の検討結果等に基づく次年度事業計画の承認等のため協議会を開催する。 ・協議会の開催と作業の概ねのスケジュールを2ページ目に示している。協議会は計4回を予定しており、作業の進捗にあわせ、適宜開催していく。
--	---

山崎議長	平成 25 年度事業計画に関して、ご意見、ご質問等あれば出していただきたい。
小林委員 (愛知運輸支局)	「4. 弥富市地域公共交通総合連携計画の見直し」について、期限が切れたと説明があったのだが、スケジュールから、第4回協議会に組み込まれているのを踏まえると、今年度中に次期計画を作ると理解して良いのか。
事務局 (伊藤)	ご指摘の通りである。
青木委員 (公募委員)	- 見直しするにあたって、三重県度会郡玉城町で行っている、オンデマンド形式というのを取り入れてみてはどうかと思う。公共バスとタクシーの中間事業という形で実施している。 - 見学等も受け入れているということなので、ここに比べると小さい町ではあるが、一度見学に行ってはどうか。
事務局 (伊藤)	- 地域公共交通連携計画と運行方法の件は別のものとご理解いただきたい。 - 東部ルートにおける予約制運行の検討について、資料6がある。 - 玉城町の場合も、予約制の、運行方法（オンデマンド）である。 - その件についても、現在検討中である。
青木委員 (公募委員)	予約制とオンデマンドでは、ニュアンスが違うのではないかと。
山崎議長	- 言葉だけの問題である。 - また後ほど、議題（6）のところで触れることとする。 - H25年度の事業計画書に沿って、進めていただきたい。 - 今後、この協議の場で、その都度、ご意見をいただきながら進めていく。

3. 議題

(4) 平成26年度生活交通ネットワーク計画（案）について

山崎議長	議題（4）平成26年度生活交通ネットワーク計画（案）について、事務局より説明をお願いします。
事務局 (横江)	○資料 4「平成 26 年度生活交通ネットワーク計画（案）」説明 「平成26年度生活交通ネットワーク計画（案）」について、資料4を基に説明させていただく。 - 生活交通ネットワーク計画には、様々な添付様式・資料があるが、ここでは、生活交通ネットワーク計画の計画部分と、計画の後ろに、表 1「地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者」として平成 26 年度から 28 年度までの 3 ヶ年分を提示させて頂いている。 - まず、「0. 生活交通ネットワーク計画の名称」は「弥富市生活交通ネットワーク計画」とする。 - 次に「1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性」は、弥富市における公共交通の現状と、これまでの取組みの経緯を踏まえ、今後も市内バス運行の改善・充実、高齢者等の移動制約者の交通手段の確保という目的のため、地域公共交通確保維持事業により地域内フィーダー系統のコミュニティバスを運行し、市内の公共交通サービスを維持し、市民生活の交通手段を確保し続けていくことが必要としている。 - 次に「2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果」として、事業の目標では、2つの目標を掲げている。

	・1つ目は「総合的満足度の向上」として、平成24年度にも実施した住民アンケートにおける総合的満足度の評価を上回る結果を得ることを目標としている。 ・2つ目は「1便当たり乗車人員の向上」として、平成24年度における実績を上回る乗車人員を確保することを目標としている。 ・また、「事業の効果」としては、満足度及び1便当たり乗車人員数の向上により、コミュニティバスの運行を維持することが可能となり、高齢者等の通院や買い物等の市民の日常生活に必要な移動手段が確保され、高齢者等の外出が促進される。また、市内鉄道との接続により、名古屋方面を始めとした通勤・通学や買い物に対応する公共交通ネットワークを構築することができ、クルマに過度に依存しない社会の構築にも繋がるとしている。 ・次に「3. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者」について、現在の系統の概要や時刻、運行事業者の決定方法について記載している。 ・次に「4. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額」については、所定の様式に従い、別途整理しているが、ここでは詳細な説明を割愛させていただく。 ・次に5、6及び8～10番の項目については、弥富市は「該当なし」となっている。 ・また、「7. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要」についても所定の様式に従い、別途整理しておりますが、ここでは説明を割愛させていただく。 ・次に「11. 協議会の開催状況と主な議論」として、平成24年度の協議会開催状況と、今回の協議会開催について記載している。 ・次に「12. 利用者等の意見の反映」については、協議会構成員に住民又は利用者の代表が参加していることや、住民アンケートを実施した上で、改善策を検討協議していることを記載している。 ・最後に「13. 協議会メンバーの構成」として本協議会の構成員を記載している。
山崎議長	・ただ今ご説明いただいた、「平成26年度、生活交通ネットワーク計画(案)」について、ご意見、ご質問があれば、いただきたい。
小林委員 (愛知運輸支局)	・資料について補足させていただくと、国からの補助の改定年度が、今年の10月から翌年の9月となるので、平成26年度となる。 ・国の補助を受ける度に、このような計画を国に提出しなければならない。なおかつこの計画については、この協議会での作成となっているので、今の事務局からの提案という形になっている。 ・毎年、計画を出して国の補助を受けた際には、その結果を協議会で確認し、自己評価をすることになっている。 ・自己評価をしていただいたものについて、中部運輸局で、第三者による二次の評価をしている。 ・昨年度分については、5月17日に、弥富市の計画に対する事業の実施結果についての自己評価について、二次評価をさせていただいた。 ・二次評価をして、その上で次年度以降の計画に繋がっているので、二次評価でどのような指摘があったのかを踏まえて、26年度の内容にどう反映しているのかを、補足させていただくと分かりやすい。

	・昨年度、国の補助を使って調査されたということで、生活交通ネットワーク計画策定調査業務報告書を提出していただいているが、この調査された部分においても、26年度の計画の中に、どのように反映しているのかも併せて、補足していただきたい。 ・p.2に「地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果」とあるが、この部分、「①総合的満足度の向上」という事で、結果的に高齢者等の外出が促進される効果があると出ている。 ・「目標値の設定」の部分で、「①総合的満足度の向上」、「②1便当たりの乗車人員の向上」という指標を使って、目標達成度を計るならば、例えば高齢者の方々の外出促進が、本当になされているのかの見方はないのか等、どうとらえるのが気になる点である。 ・フィーダー系統については、幹線系統とネットワークを組む部分の中の一体的な部分において、国としては、ご支援させていただいている。幹線系統等の接続内容がどうなのか、表1ではまだ整理されていないので、その辺り問題はないのか、確認したい。
事務局 (伊藤)	・第三者評価委員会については、昨年度まで厳しい意見をいただく中で進んできた。 ・本年度については、弥富市地域公共交通総合連携計画の作成期限が切れており、今年度取り入れなければいけないということであった。 ・利用数が増えているという実態の中で、その点についての評価はいただいた。 ・今回の資料の中でいうと、連携計画の見直しという形で、「計画」を今年度作成するという事を、入れさせていただいている。 ・高齢者の目標値だが、明確なものは今回示せていないのが現状である。前年度からの調査結果等から、高齢者の利用自体、65%程が65歳以上の方であり、内50%弱が75歳以上の方が利用されている。そのような結果から、高齢者の外出の機会を、増やす効果はあったのではないかと思います。 ・幹線等の接続の関係については、検討している。 ・従来は飛島村との連携という形で考えていたが、本年から、木曽岬町との連携も必要であるとの観点から、木曽岬町にも委員に加わっていただいた。今日配布した資料にも書かれているが、今後、検討して行く必要があると考えている。 ・ネットワーク計画との関連性だが、今回あまり強いものはなかった。調査事業の結果として、このように進みたいという形ではあるが、明確な反映ではないということで、ご承知願いたい。
山崎議長	・フィーダーとしての評価というところが、報告書の中で、具体的にどのあたりで検討してきたのかというところである。 ・乗り継ぎの話の中で、p.114あたりか。 ・飛島公共交通バス名港線との乗り継ぎとか、その前あたりか。 ・昨年度の調査業務の中で、検討してきたということであるが、これを改編していくということではなかったか。
事務局 (伊藤)	・前年に、ネットワーク計画の策定調査業務があったが、p.109あたりから、飛島村との連携は強いと謳わせていただいている。この辺を検討していくという形になっている。

山崎議長	・24年度の調査業務の中で検討してきた事が、26年度の計画の中に活かされているのか。
事務局 (横江)	・「事業計画」を先ほど説明させていただいた中で、報告書のp.109、4点の検討方針の中で、実施できるものから順番に検討して、進めていただくと考えている。 ・3点目の「ニーズに則したダイヤの見直し」については、次回の協議会でご提示させていただく予定であるが、調査事業で出た結果を踏まえて、見直しを進めていきたいと考えている。
山崎議長	・「評価指標」については、事務局からの話の中で、高齢者の利用が65%ぐらいということであった。 ・それを評価の目標値として掲げていかなくていいのか、ということであったが、その辺りはどのようにお考えか。
事務局 (横江)	・ネットワーク計画の目標値については、第三者評価委員会の評議員さんより、弥富市について、高齢者の利用が多いという部分で、評価指標に高齢者関係の、満足度等指標を入れてはどうかというお話を伺ったが、平成24年度は高齢者に対する指標を持っていないという状況であった。 ・今年度は、その部分での検討はあったが、弥富市の高齢者に対する満足度等、利用機会確保に関する数値等を持っていない状況であるので、昨年同様の目標値を挙げてある。
山崎議長	・そういう状況であると、以前と比較しての話は出来ないが、今年度、住民アンケートを行う中で、高齢者の外出状況を問う項目を入れてはどうか。
事務局 (横江)	・今年度の事業計画の中に、住民アンケート、利用したアンケート等を検討しており、今、ご指摘いただいた部分についても、項目に入れるよう検討を進めていきたいと考えている。
山崎議長	・他にご意見、ご質問等はあるか。
服部市長	・国土交通省の方のご指摘、ご意見は非常に大事だと思う。 ・反省を踏まえ、平成26年度の事業計画をどのような形でやっていくかということに対して、事務局として、次回の協議会までに意見をまとめて、全員が認識、理解をしていただけるように、もう一度きちんとまとめ、提出していただきたい。 ・それから、また皆さんのご意見等をお伺いしたいと思う。 ・今の議論が、このテーブルの一致した意見となっていないと強く感じる。よろしく願います。
事務局 (伊藤)	・そうさせていただきます。
山崎議長	・ネットワーク計画に関しては、提出期限が、今月末くらいなので、事務局がどのように検討したかということ、委員の方々に、文書なりで示していただいた上で、次回この場で説明していただくという形をとるといふことでよろしいか。
事務局 (伊藤)	・ご指摘の点をまとめて、委員の方々にお配りするという事で、お願い

	したい。
山崎議長	・ネットワーク計画を、この協議会で計画（案）として承認をしていただかなければならない。 ・目標設定に関する部分で、検討が必要とのご指摘があった。 ・支局さんと調整しながら、進めていただけるということで…。
小林委員 （愛知運輸支局）	・元がなければ、比較対象として見れないので、とりあえずはこのままであっても、ここをどうするかという部分を示していただきたい。
山崎議長	・事務局からの回答を受けて、目標値として掲げることは必要ないが、考え方を整理して、今後どうして行くか、きちんと見ていかなければならないということを、事務局から示していただきたいということであった。 ・まだ細かい調整等はあると思うが、支局にご指導いただきながら、事務局一任ということで進めていくことで、ご了承いただきたいと思う。 ・承認いただける方は、挙手をお願いする。
委員一同	・（全員挙手）《承認》
山崎議長	・事務局、よろしくお願いします。

3.議題

（5）利用者実態調査について

山崎議長	・本年度、具体的に実施していく事業のひとつである。 ・事務局より説明をお願いします。
事務局 （横江）	○資料 5「利用者実態調査について」説明 ・利用者実態調査について、資料 5 を基にご説明する。 ・生活交通ネットワーク計画策定のための基礎調査の 1 つとして、利用者特性等を把握するための利用者実態調査（乗車人員調査・OD 調査）を実施する。 ・利用者実態調査として、昨年度同様に「乗車人員調査」「OD 調査」の 2 つの調査を考えている。 ・「乗車人員調査」については、実証運行期間中、毎日、乗車人数を調査する。 ・「OD 調査」については、1 週間ほど期間を設けて調査する。 ・参考に、実証運行開始から平成 25 年 3 月までの乗車人員の推移を整理した。 ・緑色の線が平成 22 年度、青色の線が平成 23 年度、赤色の線が平成 24 年度の値となっている。 ・年度を追うごとに堅調に乗車人員が増加しており、平成 22 年度の総乗車人員は 48,845 人、平成 23 年度には 66,242 人、平成 24 年度には 68,798 人となっている。 ・また、平成 25 年の 2 月・3 月は前年度に比べて減少しているが、グラフの右上に示している一日平均乗車人員で見ると、前年よりも増加していることが分かる。 ・2 ページ目にはルート別に乗車人員の推移を示している。 ・また、3 ページ目にはルート別、年度別に一日平均乗車人員と一便あたり平均乗車人員を示している。 ・これを見ると、全てのルートで一日平均乗車人員、一便あたり平均乗車人員ともに前年度よりも増加していることが分かる。
山崎議長	・本年度、利用者の実態調査を実施していくという報告があった。

	・参考資料として、昨年度までの乗車人員の調査結果が提示された。 ・これらの内容について、ご意見、ご質問等はあるか。
加藤委員 (福寿会)	・利用状況の北部ルート、南部ルート、東部ルートの折れ線グラフの中で、一番下の東部ルートについては、3年間の伸び率が非常に高いことに対する分析として、十四山地区の関係があるかと思うが、公共交通に対する歴史が浅いという中で、急遽、市民の皆さん方の認識が高まり、利用度の伸び率が高くなっている。 ・南部ルートについては、3月の状況を見ると、赤が一番落ち込んでいて、次が青で、24年、23年、22年と年を追う毎に利用状況が低下しているように思うが、見直しの中で、この実態についてどのように考えているかお聞きしたい。
山崎議長	・今現在、感覚的にこういうことが原因ではないかということがあれば。
事務局 (伊藤)	・東部ルートについては、バスを使うことに慣れてきたこともあるのかなと思う。もう一点は、前のダイヤ改正以前では、海南病院までしかバスが行ってなかったという現状があり、今は、福祉センターまでイオンタウンを通過して運行している。その中で、逆に言うと、東部ルートの中だけの伸びプラス、南部ルート・北部ルートの方での短い区間の使用も増えていると感じている。 ・各年の利用者の関係で、今年と昨年の最大の違いは、日曜・祝日の運休や早朝夜間の減便が一番大きな問題となっている。昨年に比べて今年が増えている状況は、逆に嬉しいケースだと思っている。 ・p.3の、「一便あたり平均乗車人員」を見てもらうと、かなり端的であるが、皆さん方もバスに乗ることに慣れてきた、そして利用しやすい時間帯の便という形で、逆に言うと、便に合わせて生活していただくようになったのかもしれないが、利用実態としては上がっていると捉えている。
山崎議長	・よろしいか。 ・今の説明の中で、南部ルートの3月が年々減ってきているという話はどうか。
事務局 (伊藤)	・それは原因がつかめていない。 ・現実的に、昨年の数字と今年の数字の3月のところを見ていただく中で、減便した分の影響よりはいい数字が出ているかと逆に感じている。
山崎議長	・3カ年だけなので、順々に減ってきているように見えるが、何とも言えないところはある。 ・今、事務局からも話があったし、運輸局の第三者評価でもあったが、弥富市の場合はサービスレベルを落としているにもかかわらず、利用者がとにかく増えているということがある。 ・当初、これでもかというぐらいのお金をかけてバスを走らせたが、さすがにこれだけお金を使っているのは辛いだろうということで無駄をどんどん削っていく形でここまできている。 ・なかなか上手い具合に、無駄を削って利用者が増えている状況である。 ・普通、サービスレベルを落とすと、その分利用者がガクっと減するという

	悪循環がみられたりするが、いい方向にきている。 ・ 東部ルートは、全体として利用者が少ないが、伸び率で見るとすごく増えている。路線として評価しないといけないと感じる。 ・ 他によろしいか。
古田委員 (愛知県バス協会)	・ 実態調査のイメージについて教えてほしい。 ・ 8 月頃の協議会の時のモニタリング調査検討というのは、この利用実態調査のことか。 ・ 利用者実態調査は、いつからいつまでやられるのか。
事務局 (横江)	・ 今回の利用者実態調査は、乗車人員調査については、運行日毎日実施している。 ・ OD調査については、今年の中で一週間、期間を抽出して実施を考えている。
古田委員 (愛知県バス協会)	・ 利用者の特性の中に、例えば利用者の方は使う曜日があると思う。何曜日ぐらいに、例えばお年寄りがどちらの方面に行くのかなど、ここの中にどんな調査をされるのかという項目がない。ザクっとでいいので、利用者特性というのはどのような項目出しをして聞いていくのかを教えてください。
事務局 (伊藤)	・ 今日お渡しした「生活交通ネットワーク計画」の策定調査業務の p.63 をご覧いただきたい。 ・ 昨年度のモニタリング調査の内容を記載している。本年においても多少の手直しは必要になってくるが、基本的にはこういった形の調査を進めたいと思っている。
山崎議長	・ 今、説明のあった p.63 が全体の調査の流れということである。住民アンケートの流れである。 ・ 今日、資料5にあるのが利用実態調査ということである。 ・ 利用特性についてどんな調査をするのかという質問に対しては、今年度のアンケート調査の中でやっていくということである。 ・ OD調査自体も、1週間やられるということなので、曜日の変動等はどうにかできる。 ・ OD調査は、弥富市はおもしろい調査をやっているので、紹介していただけるといいなと思う。調査票がシールになっていて、性別・年齢・目的等の簡単なアンケート…。
事務局 (横江)	・ 本日も配りした資料の「報告書」 p.28 に、ODの調査票が記載してある。
山崎議長	・ 縮小されていて見づらいが、シールを貼ってもらって、どんな属性の方が、どこからどこまでバス停を使っているのかわかる調査票になっている。 ・ 他によろしいか。
佐藤委員 (区長会)	・ 利用実態調査をするというのは、できるだけ常時やっていくのがいいと思っているので、その結果を何にどう反映していくのかわからない。 ・ 例えば、次の議題のようなところの部分について、反映していくという

	ようなことに使われるのか。 ・昨年やられた調査結果の中で、要望が改善された場合、高い利用意向があると、結果として出ている。 ・それについては、ダイヤルート等についての改善が出てくる。 ・例えば、東部ルートの利用者が少ない中で、東部ルートの地域の方々はこういったところに移動したいのかという部分が確認される中で、ルートが地域の方々の移動したいところと一致しているかいらないかについてもチェックしていくことにより、使いやすいものになっていくと思う。 ・今走っているルートの乗降人員を毎日調べていくのは、調べてもらえばいいし、ODについても調べていただくのは構わないが、結果、今走っているルートに対してのOD結果であったり、乗降人員結果ということになるので、果して、そのルートという部分が、地域の方々が望まれてる部分と一致しているかどうかというところまでは、なかなか分からない部分がある。 ・そういう部分を、今後どうやって聞いて、改善策に結びつけていくのかを考えると、利用実態調査を追いかけるだけではなかなか難しい部分があるのではないかなと思う。 ・全体的に、こういった形で進めていくのかというところをお伺いしたい。
事務局 (伊藤)	・今年度、その調査項目がないが、以前という言い方がここでいうのは適切かどうかかわからないが、どんな目的でバスに乗るかという調査をさせていただいた覚えがある。 ・実際に乗っていただいている便の様子から、例えば東部ルートであれば、通勤・通学というものに対する利用は非常に少ないのではないかなというのが見えてきたということもあった。 ・いわゆる福祉目的の利用が多いという形の中でのダイヤの変更をさせていただいたこともある。 ・実際に、乗っていらっしゃる方、いらっしゃらない方、両方あり、どちらに重きを置くかという問題も確かにあるかなと思う。改善されれば利用するというアンケート結果は、毎年多い数が入っている。 ・ただ、実際に乗っていらっしゃる方の利用の仕方は、やはり重要なことになるのかなと思う。 ・アンケート調査と実際に乗っている乗降調査を、総合的に見ていく必要があると考える。
山崎議長	・東部ルートに関しては、次の議題にあがっているように、具体的な検討をしている。 ・東部ルートに関しては、別途調査をやっている。全体への住民調査や利用実態だけではなく、東部ルート沿線の方々には、昨年度別途調査をやらせ、検討をやっているということである。
服部市長	・先ほど、福寿会の加藤委員からお話があったが、東部ルートのコミュニティバスを利用される方の最大の目的は、やはり福祉だったということである。

	・福祉センターの方にラインを延ばし、それが非常に功を奏して、利用するお客さんが増えたということである。 ・これはこれで、しっかりと我々としては考えていかなければならないと思っているので、よろしくお願いします。
山崎議長	・よろしいか。 ・それではまだ議題が2つあるので、スピードアップしていきたいと思う。 ・今、いろいろ意見をいただいた。それらを踏まえて、利用実態調査、事業計画に沿って進めていただきたいと思う。

3.議題

(6) 東部ルートにおける予約制運行の検討について

山崎議長	・次の議題、「(6) 東部ルートにおける予約制運行の検討について」事務局から説明をお願いします。
事務局 (横江)	・まず、新しい委員の方もおられるので、予約制運行について、簡単に説明させていただく。 ・予約制運行は、文字通り予約があったときのみに運行するので、予約がない場合は運休となる。 ・あくまでも一例として、利用方法やメリット・デメリットについて説明する。 ・利用方法としては、利用者は事前に電話等で利用する便と乗車・降車する停留所の予約をする。そして事前に予約した便に予約した停留所から乗車し、予約した停留所で降車する。 ・メリットとしては、予約があった停留所のみを運行するため、運行（乗車）時間が短縮され、目的地へ早く到着できる場合がある。 ・また、予約が無い便は運行しないため、空（カラ）の状態での運行が無くなる。 ・さらに、運行方法によっては、経費が安くなる場合もある。 ・一方、デメリットとしては、利用する際に事前の電話予約が必要となり、予約がない場合は停留所で待っていても乗ることができない。 ・また、予約のあった停留所のみを運行するため、到着時刻にバラツキが出る場合がある。 ○資料 6「東部ルートにおける予約制運行の検討について」説明 ・ここより、東部ルートにおける予約制運行の検討について資料 6 を基にご説明する。 ・資料 6 では 3 つの運行方法について記載している。 ・一番上の段が、現在の運行方法 ・真ん中の段が、現在の運行を単純に予約制運行に切り替えた場合 ・一番下の段が、エリアを「(仮称) 目的地エリア」と「(仮称) 運行エリア」とに区分し、エリアを跨ぐ停留所間の移動や運行エリア内で利用可能とする予約制運行についてとなっている。 ・まず、現在の運行方法について説明する。 ・現在の東部ルートの運行経費は年間 1,692 万円となっている。 ・また、車両は定員 27 名のマイクロバスで、平日は 5 便、土曜日は 4 便運行している。 ・なお、予備も含め 2 台で運行しており、ともにバリアフリーは未対応となっている。 ・平成 24 年度の 1 便あたりの利用者数は平日 6.1 人、休日（土曜日）は

	8.3 人となっており、十四山総合福祉センター、鮫ヶ地、佐古木駅、近鉄弥富駅南口、イオンタウンでの乗降客が多くなっている。 ・利点としては、ダイヤに即して常時運行しているため、利用者は突然の用事であっても、バスを利用しやすいということ。 ・これまでの実証運行を含め、利用者は増加傾向であることから、少しずつ地域に馴染んできていると考えられること。 ・弥富市役所や近鉄弥富駅、総合福祉センターなど、弥富駅周辺部では、北部ルート、南部ルートとも重複している区間があり、利便性が非常に高くなっていることなどが挙げられる。 ・課題としては、バスの乗車定員に対し、利用者が少なく、利用者がいなくても運行していること。 ・増便するには、車両を追加導入する必要があることなどが挙げられる。 ・ただ、ダイヤに大きな影響のない範囲であれば、費用の増加なしにバス停を増設することは可能と考えている。 ・続いて、真ん中の段の現在の運行を単純に予約制運行に切り替えた場合について説明する。 ・車両を小型化しワゴン車を導入、ダイヤは現在の運行と同一とした場合の運行費用は 1,775 万円と見積もっている。 ・利点としては、利用者がいない場合は運行しないため、効率的な運行が可能となること。 ・現在の運行に近い場合、予約制運行としては地域に馴染みやすい可能性が高いこと。 ・あくまでも目安となるが、現在の運行と同じようにバス停ごとのダイヤを設定することが可能であること。 ・車両が小型化されるため、ルート上だけでなく、その近辺も含めたバス停の増設が可能であり、ダイヤに影響のない範囲であれば費用の増加がないことなどが挙げられる。 ・課題としては、乗車定員が少なくなるため、乗車できない場合が発生する可能性があること。 ・増便するには、車両を追加導入する必要があること。 ・予約制となるため、利便性の低下による利用者の減少を招く可能性があることなどが挙げられる。 ・続いて、一番下の段のエリアを区分し、エリアを跨ぐ停留所間の移動や運行エリア内で利用可能とする予約制運行について説明する。 ・基本的には真ん中の段の予約制運行と同様だが、他ルートも含めて考えると、全ルートの重複区間での利用者が多いため、目的地エリアから目的地エリアへの移動を禁止することで、全てのルートが重複する区間内での利用抑制を図り、乗車できない場合が発生することを抑制したものとなっている。 ・そのため、予約制となるうえに、エリアに関するルールが増えるため、利便性の低下により、利用者の減少を招く可能性があると考えている。 ・運行費用については、真ん中の段の予約制運行に比べ少し高い 1,932 万円となっている。 ・昨年度より、東部ルートについては予約制運行の検討をしているが、昨年度の調査事業による改善方策の 4 つの検討方針の中に「中長期的な視点での新たな運行方法とバス車両更新時における適切な大きさの車両の導入の検討」とあるように、この方針に基づき、費用・車両についても、契約方法も含め、効率よくできる方法について調査検討し、今後も議論を進めたいと考えている。
--	---

山崎議長	・説明があった「東部ルートにおける予約制運行の検討について」ご質問、ご意見等はあるか。
秋元委員 (公募委員)	・東部ルートだが、表からいくと、着実に伸びている。ただ、他のルートと比べると一桁低い利用となっている。課題があるというのは認識されていると思うが、伸びている状況で、今、予約制運行に変更するという大きな冒険をしないといけないのかという疑問がひとつある。 ・きんちゃんバスだから、予約制運行というのは、私の認識ではタクシーみたいになるので、課題の中で、例えば移行した場合に認知されるまでどれぐらいかかるのか、認知が失敗したら、この上がっている数字も逆転してしまうのではないかと、前年割れしてしまうのではないかと。大きな目標の中に、「前年以上の」ということがあるので、慎重に考えてはと思う。 ・予約制運行方法で、他の市町村で成功事例があるのかどうか気になる。 ・今、その方向性でいいのかどうか、疑問がある。その点いかがか。
山崎議長	・事務局、お願いする。
事務局 (伊藤)	・予約制運行であるが、今の段階ですぐ変更するかとなると、これから考えていかなければいけないと思っている。 ・この運行の表の一番上はマイクロバスだが、二番目、三番目は、一応タクシー会社の運行という形になっている。 ・成功事例ということだが、今回の協議会の前に、米原市と可児市を実際に視察してきた。こちらは、いわゆるワゴン型の普通のタクシーを使った形のデマンド方式になっている。問題は多いようで、特に米原市だと、今日の資料のp.123をご覧ください。可児市は載っていないが、米原市の「まいちゃん号」「カモン号」がある。これは完全なタクシーを使った運行方法である。米原市は、合併したこともあり米原地区の方と旧山東町のふたつのエリアで運行している。相互間の運行はしていない状況である。「まいちゃん号」については、地域的に非常に狭いということで、基本的にはタクシーのメーターどおりのお金をお支払いするといった形になっている。大人300円という形になっている。「カモン号」は、ある程度路線を決めてという形で動いているが、予約制を取って以降、利用者が半分になったということで、成功事例の逆の話になるが、そういったような事例もある。比較的成功に近いのではないかとこの所を2ヶ所見に行ったが、いずれにしても、いろいろな問題を抱えているというのが現状のようである。
秋元委員 (公募委員)	・東部のルートというのは、今年の平均利用人数は低いから問題があるという捉え方をされてるのか。
事務局 (伊藤)	・そういった認識を皆様方が持たれたというのは非常に大きくある。 ・特に、24年度についてはかなり改善されているが、23年、22年というのは、非常に芳しくない数字が並んでいるという中から、予約制運行もひとつの検討課題として取り入れるという中で、研究させていただいたというのが現状である。

秋元委員 (公募委員)	・これはもう、そっちの方向でいくという…。
事務局 (伊藤)	・今後…。
秋元委員 (公募委員)	・もう一年、次の利用の人員やその辺は判断しないということか。
事務局 (伊藤)	・まだ、現状どうするという結論までは出ていないし、この協議会の中でお決めいただく形になる。
秋元委員 (公募委員)	・確実にステップアップしてきてるので、すごくもったいない。 ・本年度、また落ちるかもしれないが、どうなのかなという思いがある。
事務局 (伊藤)	・非常に早く、オンデマンドに、いわゆる予約制にしたらどうかと話もあったが、調べていく段階で有意義的なものだけではないということがわかってきた。 ・現在、バスについては、減価償却が終わっていて、バスの利用だけについては、運行経費はかかるが、ほとんど購入に対する経費がかかってない状況になっている。車両の耐用年数がきた段階で、当然こういったことを含めて、車両の大きさも含めて考えていくべきの話かと思っている。
山崎議長	・よろしいか。 ・おそらく秋元さんがご心配されているところは、事務局の方はわかっていて、そういった検討するという姿勢でいるようである。 ・この会でも何度も話しているが、一部の情報システム系の方々が予約管理システムを作って、それをオンデマンドバスと名付けて、マスコミがこれを取り上げたことで、住民の方々が食いついてしまったところがある。 ・何でもかんでも予約運行型にしてしまっていて、先ほどの「カモン号」は失敗してしまった例、利用者が半減してしまったような例もあるということなので、慎重に検討していく必要がある。 ・今日提示していただいた資料6は、ここまでの検討で、具体的な経費を積んでみたらこんなふうになったということで、今後も慎重に検討していくということでよろしいか。
事務局 (伊藤)	・はい。
山崎議長	・他によろしいか。
青木委員 (公募委員)	・この資料を最初に見た時に、予約制という項目があったので、弥富市もやっているのだとほっとした部分があった。 ・私が言葉になぜこだわるかというと、予約というと、一方契約や双方契約があるかと思うが、ある意味で、利用者の要求に応えるという意味で、その中間的な立場をとったらどうかなと思った。 ・三重県の度会郡の玉城町という所、明和町の隣の、小さい、人口も10分の1ぐらいの町であるが、山あいの町でそういうことをやっているということである。3年間、乗車傾向や利用度とかいろいろ調べて、それ

	を東京大学の大学院に研究依頼をして、自分たちと独自に研究と一緒にしてきたという話があり、弥富市も導入したらいいのではないかと思います。 ・ここまで進んでいることも、今日初めて資料を見せてもらってわかったが、弥富市からすれば、人口から立地条件など、いろんな面で10分の1ぐらい小さいのでやれたが、そのためには、三重交通さんの人員削減とかがあって、それを雇用する意味でも、そういう施設を整えてやったという話である。一度検討していただきたいと思う。
事務局 (伊藤)	・先ほどから同じ事を言っているが、p.125をご覧ください。 ・玉城町の「元気バス」の概要が書いてある。 ・ここについては、事務局の方も行って、実際に話を聞いている。 ・その結果として、こちらのシステムでは、先ほどの東京大学の話もあったように、運行するためのシステムが非常に特色があるというふうに私は捉えている。 ・スマートフォン等を使って、予約が取れるといったものはそういうシステムになっていて、誰でも手軽に取れるといったことが売りになっている。 ・運行としては、割りと単純な路線であるので、この方式をそのまま弥富市に当てはめるのは、非常に難しいのではないかと、前年度の協議会の中でもお話しさせていただいている。
山崎議長	・よろしいか。
福田委員 (民生委員)	・先ほどから東部ルートが話題に上っているが、あそこは人口も少ないし、立地的に蟹江駅へ出る人が結構いて、飛島バスを利用して行くという声をよく聞くので、乗客人員が増えるというのは当然だと思う。 ・今まで蟹江に行っていた人が、飛島のバスに乗せてもらってという立地があるから、増えると思う。 ・青木さんが言われた意見は、小さな町だからできることであって、そこだけが、一箇所、東部だけがそういうことをしだしたら、返って、北部の不便な人たちも要求してくるような形になると思う。小さな町だから統一してできるのであって、弥富には当てはめないほうがいいと思う。 ・利用される方を、高齢者に重点が置かれているが、子育てに関わっている人達が、双子とか三つ子を持っていらっしゃる方、そして生活保護を受けている人達は、タクシーを利用することができない、だから安いバスを利用したい、もう少し本数を増やしてほしいという意見を私達民生委員はよく聞く。これを見ると、木曽岬は1時間おきに出ているが、弥富は3時間ぐらい間があるから1回行ったらなかなか帰れない。もう少し本数があれば利用しやすいということで、コースよりも本数を、直線的でいいので、増やすとよいのではないか。ドアツードアを要求するのは、公共の乗り物には無理だと思う。利用の多い所をまっすぐ走り、そこまで出てもらう。そのような改善をしない限り、いつまでたっても、問題が解決しないと思う。

山崎議長	・なかなか難しい問題である。 ・経費を削減するには、本数は削らなければならないといったときに、どうしたらいいかという、少ない本数でも使えるダイヤにすれば良いのではないかという考え方もある。 ・事務局、何かあるか。
事務局 (伊藤)	・よくお話をいただく内容のひとつである。 ・現実的に本数を増やすというのは、現在の台数では難しい。 ・飛島さんも、木曽岬さんにしても1時間に1本は確保されている。朝、夕はもっと頻繁な本数でやってみえる。飛島さんのコミュニティバスは少し複雑かもしれないが、それ以外はシンプルな路線で、目的がはっきりしている。 ・弥富市の場合は、それがなかなか出来ない。要望が多い中で、バス停が増えていつてしまったという現実がある。 ・ひとつの取組みとして冊子のp.137をご覧ください。「サイクル&バスライド」という形で、停留所まで自転車で行き、そこからバスに乗るという取組みも行っているが、なかなか成果が上がらないのが現状である。 ・今あるバス停を無くすということに対して、非常に抵抗があるのが現実で、なかなか踏み込みにくいという現状はあるということをご報告しておく。
山崎議長	・他によろしいか。
鈴木委員 (女性の会)	・実際に利用してみたが、利用したい時間、系統にバスがなく不便を感じた。 ・住んでいる所から、十四山スポーツセンターに行こうと思った時、便数もなく、路線もない。 ・あちこち、ぐるぐる回るのはなく、一本幹線（道路）を作って、そこを往復させ、便数を増やしたら便利になるのではないかと考える。
事務局 (伊藤)	・今のご意見もよくいただくご意見である。 ・弥富市の中でどこが幹線になるのかという話になる。 ・南部ルートの場合だと、中央幹線を通すことになると思う。そうすれば、時間短縮、便数を増やすのも可能かもしれないが、実際に停留所まで1kmかけて歩いてみえるのか、現在バスが走っている所の住民の方のご理解がいただけるのか、かなり難しい問題である。 ・弥富市のコミュニティバスは、幹線だけを走るという形でやっていけるのなら良いが、東部ルート、北部ルート、それぞれどこのルートを残すのかというのは、非常に難しい問題である。実際、バス停が遠くなっただけでもご批判をいただいているのが現状である。 ・幹線だけを通すのは理想形ではあるが、それに対する枝の部分のケアをどうしていくのかというのは、経費やそれに伴う便数など、問題は難しい。決して諦めている訳ではなく、サイクル&バスライド等の取組みもしているが、なかなかそれを実行するための良い方策が見つかってい

	ないのが現状である。
山崎議長	・連携計画という言葉は分かりにくい、弥富市の公共交通基本計画を考えていく上でも、そのあたりの考え方も整理していく必要があると考える。
加藤委員 (福寿会)	・規約を見ていると、分科会、幹事会というのがあるが、これを有効に活用されているのか。 ・それぞれの立場のご意見が出ている。西部臨海代表の方も見えるし、企業関係の方は通勤という形でバス利用される。私は南側に住んでいるが、筏川、中央幹線など、朝、夕のラッシュもあり、生活道路が企業道路になってしまって、事故も多くなった。 ・飛島村が、西部臨海に通勤される方のバスを名古屋港から乗り入れたり、弥富市も乗り合わせを議論されているが、専門的に、もう少し分科会で協議していただき、一部の強いところだけ利便性が高まるのは良くないので、幹事会で調整していただき、このような委員会の中で、最終的に弥富市としての方向性を決め、いろいろな立場から、確認、認め合う形で、組織を活用していただきたい。 ・弥富市としては何が適切なのか、有効なお金の使い方等、規約を活用し、専門的に議論を深めていただいたら良いと思う。
事務局 (横江)	・今まではやっていない。 ・今、ご提案いただいたことも、必要に応じて、ご審議いただく場合もあるかと思う。宜しく願いたい。
山崎議長	・今、おっしゃられたことは、地域の公共交通バスを考える上では大切なことで、いろいろな組織の代表の方々が集った中で、各地域の個別の問題は取り上げられない。分科会等、地域の中の協議会があり、そこで具体的な話しが出来ると良い。 ・その協議会の中で、『自分たちのバス』という意識が芽生えることもある。 ・大変なのは、市役所職員の方々である。分科会を設けるのは、行政職員に負担がすごく大きくなっていくところもある。 ・現状は、バスだけに当てられる人間の数はすごく少なく、弥富市の場合でも0.5人以下である。
小林委員 (愛知運輸支局)	・新たな予約制の運行の提案であるが、予約運行というのを目的にするのではなく、これはひとつの手段であるので、現況の中でいろいろな部分を整理していきながら、尚且つ予約制が全て万能ではないということで、得意分野もあれば、まずいところもある。 ・色んなところを整理していく中で、結果こういう考え方もあるのではないかと提案をしていかなければ、なかなか議論は進まないのではないかと。 ・中長期的な運行方法の検討であれば、すこし整理しながら議論していただければよいのではないかと。
山崎議長	・事務局で対応していただきたいと思う。

3.議題

(7) その他

山崎議長	・その他ということで、資料7「地域協働推進事業費補助金の創設について」運輸支局の小林様より説明をお願いする。
小林委員 (愛知運輸支局)	○資料7説明「地域協働推進事業費補助金の創設について」説明 ・国の公共交通に対する支援として、今年度から新たな制度を設けた。 ・今年度、弥富市においても連携計画を見直していくというお話があったが、バスや鉄道、タクシーなどのモードの連携だけでなく、関係者の連携、周辺自治体との連携などにより、公共交通体系を作っていくための基本的な計画となるものである。 ・その中で、作ったものをうまく利用促進していき、持続可能なものにしていくために、地域ぐるみで取り組んでいく利用促進策に対し、国として一定の支援をしていくための新たな制度である。 ・この支援制度を活用するためには、連携計画の中で位置づけられていることが条件となる。 ・今年度、弥富市においても連携計画を見直していくというお話があったので、使えるものは使っていただきたいということで、このような支援制度をご案内させていただいた。 ・細かい内容については、お時間のある時に見ていただければと思う。
山崎議長	・ご質問よろしいか。 ・国の方で、いろいろな支援制度を準備して下さっているので、ぜひ、補助金をもらう為にやっているのではないが、事務局で努力して取り組んでいていただきたいと思う。 ・「研究成果報告会」ということで、私が所属している研究所で、年1回、成果報告会をやっている。バスの報告もさせていただくので、興味ある方はお越しいただきたい。 ・ここまで通して、何かご意見はあるか。 ・これで議題は全て終わった。 ・事務局から連絡はあるか。
事務局 (横江)	・次回、第2回「弥富市地域公共交通活性化協議会」は、8月上旬頃を予定している。日程が決まり次第、皆様にご案内させていただくので、よろしくお願いします。
山崎議長	・以上をもって、第1回弥富市地域公共交通活性化協議会を閉会する。 ・今後とも、皆様方にはご協力をお願いします。

以上